

新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインにもとづく競技会運営手順書

Ver.1.1

1 競技役員的心得

新型コロナウイルス感染拡大予防を行いながら競技会を運営するために、(公財)日本スポーツ協会が示した「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防のガイドライン」、(公社)全日本アーチェリー連盟が示した「全日本アーチェリー連盟主催のイベント開催における感染予防策について」、および東京都アーチェリー協会が定めた「新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」にもとづき、安全に競技会を開催するために競技役員や参加選手に守っていただきたい留意点をまとめました。

感染予防には競技役員だけが頑張るのではなく、参加選手に順守すべき事項を明確にして協力を求める必要があります。これを理解いただけない選手、約束事を守れない選手には、他の選手の安全を確保するために、途中退場を求める場合もあり得ることを覚悟してください。

競技役員、参加選手で一致団結して感染防止に取り組み、安心して楽しめる競技会を実施しましょう。

2 競技役員留意事項

2.1 参加申込み受け付け～競技会当日までの準備

- 左射ちの選手には申込書の備考欄に『左射ち』と記載してもらおう。
- 左射ちの選手と右射ちの選手が正対しないように立順を組む。的の都合でどうしても正対が避けられない場合は、1人分以上間を空ける。
- エントリー担当者は、参加申込み確定メールを送付する際、体調不良の際は無理をせず大会を欠席すること、およびその際には『体調申告書』を提出することにより、参加費の支払いは免除されることを、注意事項として伝える。
- 競技役員の動員は、当日欠席を見越して人数に余裕をもって集める。競技役員も選手同様、体調不良の際は無理をせず欠席するように伝える。
- 競技役員の欠席により、大会当日、1級審判員が一人もいなくなる場合は、できるだけ早く都ア協審判部会長の小杉まで連絡すること。

連絡先:080-5534-9081(小杉理加携帯)

2.2 大会当日ー競技役員集合～受付

- 競技役員は所定の場所に集合し、まず検温担当者を決め、先に会場に入ってもらい、検温担当者の準備が整ってから、競技役員が入場し、検温および『体調申告書』の記入を行う。『体調申告書』に一つでも『有』または体温が 37.5 度以上ある場合は、速やかに帰宅していただく。
- 選手が入場する際には、検温および手指のアルコール消毒をしていただく。検温担当者は2人1組で、一人が体温測定およびアルコール消毒を行い、もう一人が『体調申告書』に体温を記載して選手に手渡す係となる。体温が 37.5 度を超える選手がいたら、名前を確認してその場で検温担当者が『体調申告書』に必要事項を記入し、参加費は徴収せずに速やかに帰宅していただく。『体調申告書』を自宅で記載して持参してきた選手にも、必ず検温は行うこと。
- 検温担当者は選手の密集を避けるため、初めは 2 組以上で検温を行い、様子を見て数を減らしていく。また、非接触型の体温計は風などの影響を受けて正確な温度が計測できなくなるため、風雨の当たらない場所で検温を実施する。
- 受付は『三密』を避けるため、できれば屋外に設ける。受付では選手から『体調申告書』と一緒に参加費を受け取る。金銭の受け渡しを選手と直接行わないようにするため、必ず専用トレイを用意する。
- 受付および検温場所には手指消毒用のアルコールまたは微酸性電解水を配備する。
- 受付および検温担当者は、飛沫感染防止のため、フェイスシールドとゴム手袋を着用する。フェイスシールドは使いまわしはせず、審判員各自で用意するか、審判従事初回のみ主管ブロックで用意したものを配付するようにする。
- 選手および競技役員の『体調申告書』は受付にて取りまとめ、スコアカードと一緒に 1 か月間保管する。

2.3 会場設営～開会式

- 会場設営の際は、マスク着用を求めない。選手が密集しないよう、競技役員が設営の動線を管理する。
- WL 後方の選手待機エリア、DOS 席に手指消毒用のアルコールまたは微酸性電解水を配備する。
- 開会式でマイクを使用する際は、使用者にマスクおよびゴム手袋の着用を義務付け、マイクは使用後アルコール除菌シートなどで消毒する。
- 開会式は選手は集合させず、その場で選手同士の距離を取って実施する。
- 都ア協作成のガイドラインおよび競技上の注意などは事前に紙で用意して会場内に掲示することで、開会式の時間短縮に努める。

2.4 用具検査

- 用具検査は従来通り、AB 立は 3mL、CD 立は SL、EF 立は WL に選手を並べて行う。審判員はマスクおよびゴム手袋を着用して選手の 1mほど前方に立ち、用具には触れないよう注意して検査を行う。
- 用具検査は次の手順にて行う。
 - ① 選手確認(会員証チェックは省略)
 - ② 服装(帽子、飲み物チェックも一緒に行う)
 - ③ 弓…審判員にフェイス側を向けて目の高さまで持ち上げてもらう
 - ④ 矢…すべてクイバーから出して、名前が書いてある方を上にして見せてもらう
 - ⑤ タブ/リリーサー…タブは取りかける部分の皮を伸ばして見せてもらう

2.5 競技中—審判員の場合

- 審判員は椅子を並べて着席する際には、椅子の間隔を 1mほど空ける。
- 熱中症対策のため、選手が行射中は審判員のマスク着用を求めない。
- 審判員はインカムを使用する際、イヤホンマイクは使いまわさない(その試合でのイヤホンマイクの使用する人を固定する)。イヤホンマイクは使用前、使用后それぞれアルコール除菌シートなどで消毒する。
- 選手に看的で呼ばれた場合には、密接しないよう、選手を的から遠ざけて安全な距離を確保する。
- 審判員は次の作業に移る前には必ず手指の消毒を行うこと。

2.6 競技中—DOS、計時係の場合

- DOS および計時係はマイクを使用する際、マスクを着用する。使用後はアルコール除菌シートなどで消毒する。
- DOS および計時係は、信号機のコントローラーを操作後、ボタン等をアルコール除菌シートなどで消毒する。
- DOS および計時係は、できれば放送担当者、信号機担当者を決め、複数人がマイクやコントローラーに触れないようにする。

2.7 競技終了～閉会式

- スコアカードは選手から直接受け取らず、回収ボックスを用意して提出してもらう。その際、審判員はスコアカードの確認ができないので、名前や合計点の書き忘れがないよう、選手自身が充分確認してから提出するよう、告知しておく。
- 確認用の成績表を掲示する際は、選手の密集を避けるため、掲示する場所を増やす。

- 閉会式では入賞者にバッジを直接渡さず、机の上に並べておいて、選手に取りに来てもらう。
- 会場で使用した手指消毒用のアルコールまたは微酸性電解水、アルコール除菌シート、体温計については、ブロックごとで管理する。

3 選手への注意事項

- 新型コロナウイルスだけでなく、熱中症に対する注意も必要であるので、少しでも体調不良を感じた際には、朝の体温が 37.5 度以下であっても、試合を欠席すること。
- 熱中症予防のため、マスク着用は強制しないが、咳エチケットや会話する際の距離に注意する。また大きな声での応援、あるいは残り 10 秒のカウントダウン等はしない。
- スコープの共有は目からの感染予防のため、極力避ける。
- 採点の際、感染予防のための特別措置として、スコアーを記入する選手、端末に inputs する選手を固定する。その際、必ず同的の選手全員で得点の確認を行うこと。(審判長が必ず競技前に説明する)